

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

- 1 基本的生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —
 - (1) 「学校全体で生徒指導に取り組む」体制を再確認し、一枚岩として生徒に対応する。
 - (2) これまでの遅刻指導を継承し、更なる遅刻数減をめざす。
 - (3) あいさつ運動を展開し、活気ある学校の実現をめざす。
 - (4) 社会人として通用するマナーの定着をめざし、全教員が怠ることなく様々な場面でマナー指導を徹底する。
 - (5) 社会人基礎力の獲得をめざし、生徒が考え行動しコミュニケーションする機会を増やす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における規律に関する項目における満足度（平成 25 年度 77%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 86%にする。
- 2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —
 - (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、新しい教育システムに適合したキャリア教育指導を再構築する。
 - (2) 教育課程の再編を通じて現行の授業内容も見直し、より個々の進路希望に対応できる授業の実現を図る。
 - (3) 授業アンケートの結果に基づき、教員自らが教材や授業内容の改善を図ることができるシステム等の構築をめざす。
 - (4) 朝のSHR時に実施している小テスト(=教養)を継承・発展させ、いっそうの基礎学力向上と家庭学習の定着を図る。
 ※生徒向け学校教育自己診断における進路実現に関する項目における満足度（平成 25 年度 80%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 89%にする。
- 3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —
 - (1) 部活動加入率 80%を目標に、部活動への参加を働きかけ学校の活性化を図る。
 - (2) 情報発信基地として図書館を活用するなどし、図書活動の更なる推進を図る。
 - (3) 校内美化及び緑化を推進し、心休まる校内環境を実現する。
 - (4) 国際交流を通して異文化の多様性を理解する国際感覚を養う。
 ※部活動加入率（平成 25 年度 66%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 75%にする。
- 4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —
 - (1) 地域の中学校を交えた大会(=クリスタルカップ)を全校化するなど、様々な教育活動における中高連携を推進する。
 - (2) 生徒会などと連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)への生徒の参加を推進する。
 - (3) 交通安全指導の徹底や校外立ち番などの実施を通して、地域から寄せられる苦情電話の減少をめざす。
 - (4) 「地域との連携」を生徒会活動の一つの柱として根付かせることを目標に、地域の清掃活動等、生徒を地域に出向かせる機会を増やす。
 ※生徒向け学校教育自己診断における地域連携等に関する項目における満足度（平成 25 年度 43%）を毎年 5%引き上げ、平成 28 年度には 58%にする。
- 5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —
 - (1) 安全安心な学校づくりを推進し、誰もが笑顔で登校できる学校をめざす。
 - (2) 「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」などに基づいて人権教育を推進し、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
 - (3) 海外語学研修等の機会を通して、国際社会に通用する人権意識を持つ生徒の育成をめざす。
 - (4) 相談室委員会を活性化させ、様々な課題を持つ生徒をこれまで以上にサポートできる環境を醸成する。
 ※生徒向け学校教育自己診断における人権教育等に関する項目における満足度（平成 25 年度 65%）を毎年 3%引き上げ、平成 28 年度には 74%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒指導の充実	(1) 全校体制による生徒指導の強化 (2) あいさつ運動の推進 (3) 社会人基礎力の獲得	(1) <input type="checkbox"/> これまで各部署に任せていた新任者及び経験の浅い教員(採用4年未満)に対する研修を系統立てたものへ変革し、学校全体の教員力の底上げをめざす。 <input type="checkbox"/> 転任者オリエンテーションの内容を精査し、より実行性・効果性の高いものへリニューアルすることで、全校体制による生徒指導を早い時期から実現させる。 (2) <input type="checkbox"/> 日常では教員からのあいさつを積極的に行うよう推進するとともに、登校時における校門でのあいさつ運動に生徒会役員を巻き込み、朝からあいさつの声が飛び交う活気ある学校をめざす。 <input type="checkbox"/> 生徒会及び部活動係と連携してクラブ員によるあいさつを徹底させることで、校内にあいさつしやすい雰囲気醸し出す。 (3) <input type="checkbox"/> 選択授業等を通して幼保・小・中との連携を進め、その活動の中で生徒が能動的に発表する場を積極的に設定する。 <input type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどを取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を取り入れていく。	(1) <input type="checkbox"/> 教職員向け学校教育自己診断における教職員の連携、分掌間の連携の項目における肯定率5%向上 <input type="checkbox"/> 教職員向け学校教育自己診断における教職員の連携、分掌間の連携の項目における肯定率5%向上 (2) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定率を5%向上 ※平成25年度56% → 61%目標 <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定率を5%向上 ※平成25年度56% → 61%目標 (3) <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における他校種との連携等の項目における肯定率5%向上 ※H25年度43% <input type="checkbox"/> 生徒向け普通科総合選択制アンケートにおけるプレゼン能力の満足度10%上昇 ※H25年度47%	
2 進路指導の充実	(1) キャリア教育指導の再構築 (2) 授業内容の見直し	(1) <input type="checkbox"/> 次年度の普通科専門コースへの改編を見据えて、新しいシステムに適合した進路指導の流れを構築する。 <input type="checkbox"/> それに伴い、学校行事等についても精査を行い、高校生活全般にわたって進路指導を軸とした教育活動が展開できるよう工夫する。 (2) めざす学校像2「希望する進路が実現できる学校」を実現させるため、普通科専門コースに適合した教育課程を編成し、授業内容についても個々の希望進路に対応できるようにシラバスを作成する。	(1) <input type="checkbox"/> プロジェクトチームを中心として、校内での議論を活発化する。 ※職員集会(翠考会)3回開催 <input type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における進路指導等の項目における満足度3%上昇 ※平成25年度80% → 83%目標 (2) 生徒向け・保護者向け学校教育自己診断における進路指導等の項目における満足度3%上昇 ※平成25年度80% → 83%目標	
3 特別活動の充実	(1) 部活動加入率の上昇 (2) 図書活動の活性化 (3) 校内美化及び緑化	(1) 生徒会や部活動係と連携し、仮入部の実施方法など新入生への働きかけを一から見直し、まずは1年生の入学率上昇をめざす。 (2) 図書活動活性化のめやすとして、図書貸出数と入館者数の増加をめざす。 (3) <input type="checkbox"/> 保健部と連携し、日々の掃除等を充実させ更なる校内美化に取り組む。 <input type="checkbox"/> 大阪府や八尾市、PTA、自立支援室等の協力を得て、花時計他校内緑化に対するこれまでの取組みが継承できるようにする。	(1) 1年生のクラブ加入率3%以上増加 ※H25年度66% → 69%目標 (2) 図書貸出数・入館者数5%増加 ※H25年度2200冊、5000名 (3) <input type="checkbox"/> 保健委員による清掃点検増加 ※今年度2回(6日) → 4回(12日) <input type="checkbox"/> 生徒向け・保護者向け学校教育自己診断における学習環境等の項目における満足度5%上昇 ※H25年度60% → 65%目標	
4 地域連携の充実	(1) 様々な教育活動における中高連携の推進 (2) 生徒による地域進出の推進	(1) 各クラブで個別に行われている通称「クリスタルカップ」を統合するなど、地元中学を意識した取組みを学校行事に位置づけることができるように議論を開始する。 (2) 曙川東地区を中心に、清掃活動などといった生徒が参加可能な地域の取組みを調査し実際に参加させることで、地域に根付き地域から愛される学校をめざす。	(1) 首席(地域連携担当)を中心に、部活動担当者等を含めた会議を立ち上げる。 (2) 地域活動へのボランティア生徒の参加者数	
5 人権教育の充実	(1) 安全安心な学校作りの推進 (2) 国際社会に通用する人権意識の育成 (3) 生徒相談室の活性化	(1) 担任による生徒観察を充実させ、いち早く不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化をめざす。 (2) 今年度は海外語学研修を実施する年度に当たるとも、参加希望生徒に対する事前指導の段階から異文化理解等を含めた国際的な人権意識が育つような研修を取り入れる。 (3) 相談室委員会メンバーのスキルアップと保健室(養護教諭)との連携の深化を目的として、相談室委員会の保健室常駐実現など、これまで以上に生徒相談室の校内における位置づけを高める取組みを実行する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における先生との関係の項目における満足度3%上昇 ※H25年度66% → 69%目標 (2) 生徒向け学校教育自己診断における人権教育等の項目における満足度3%上昇 ※H25年度65% → 68%目標 (3) 生徒向け学校教育自己診断における教育相談等の項目における満足度5%上昇 ※H25年度50% → 55%目標	